

もっと豊かに暮らしたい

G-NET じーねっと しが

滋賀県
男女共同参画
情報誌
vol.27
2014 秋号

「G-NET しが」とは…

滋賀県立男女共同参画センターの愛称で、「Gender-Networkしが」の略。
ジェンダー問題を見据えて、男女共同参画のネットワークを広げていこうという思いをこめたものです。

特集

男女共同参画の視点で “もしも”にそなえる

～すべての人が安心・安全に生活できる
災害に強い地域づくり～



さんかく塾課題対応編第1回

Shiga Prefectural Gender Equality Center

滋賀県立男女共同参画センター
G-NET しが じーねっとしが

～すべての人が安心・安全に生活できる 災害に強い地域づくり～

東日本大震災から3年半以上が経過しました。被災地の復興も一歩一歩、歩みを進めているところです。一方、阪神地域を中心に大きな被害を与えた、阪神・淡路大震災が発生して、まもなく20年を迎えようとしています。

こうした中、今回の特集は、去る平成26年7月27日に滋賀県立男女共同参画センターで、減災と男女共同参画研修推進センター共同代表の浅野幸子さんを講師としてお招きし、開催しました「さんかく塾 課題対応編第1回」から、「男女共同参画の視点で“もしも”にそなえる ～すべての人が安心・安全に生活できる災害に強い地域づくり～」について、そのポイントをレポートします。

なぜ、男女共同参画の視点が防災に重要なのか。

複数の県や県内全域で被害が出るような大規模災害では、時間の経過とともに被害や生活の困難さが拡大します。発災直後、死亡・大けがといった直接的被害が発生しますが、時間の経過とともに懸命の救命・救助にかかわらず、さらに被害が拡大されます。また、建物やライフラインも大きな被害を受けていることから、避難生活者が増え、その結果、避難生活が過酷になり、高齢者や障がいのある方は言うに及ばず、女性や子どもへの影響も深刻化していきます。

阪神・淡路大震災では、兵庫県内の犠牲者6,402人のうち、窒息・圧死・外傷性ショック・焼死・不明による直接死の方が5,483人(85.65%)、肺炎・インフルエンザ・心疾患・既往症の悪化などの関連死の方が

919人(14.35%)でした。関連死とは、避難生活が原因で亡くなったということであり、避難生活に課題があると言えます。



さんかく塾課題対応編第1回

避難生活で被災者はどのような状況におかれるのか。

家屋の倒壊、ライフラインの機能不全、一人もしくは家族だけで自宅にいることの不安などから、多くの方が避難所での生活を選択される一方で、自宅の倒壊を免れたり、家族に寝たきりの方や車椅子の方、乳幼児や認知症の方がおられる場合などには、避難所に行かないという状況もありました。

避難所では、多くの人々であふれ、生活環境が悪化

する傾向がある一方で、在宅での避難生活を余儀なくされた方たちには、支援がほとんど行き届かないという実態がありました。東日本大震災でも、避難所以外にも物資を配布してよいのか、避難物資の配布基準が曖昧な点等があり、在宅避難者に物資が届きにくい状況もありました。



講座会場には滋賀県防災危機管理局と近江八幡市から提供された防災グッズを展示したコーナーも設けました。滋賀県防災危機管理局担当者から展示物の説明を受けている様子

避難生活で見られる健康問題

避難生活では、高血圧などの慢性疾患の悪化、インフルエンザ等の感染症、便秘、介護者不足による褥瘡(ジョクソウ:床ずれ)、ストレスの蓄積、不眠、エコノミークラス症候群など、大変多くの健康問題が発生します。

特に、女性にとって、照明がなく、男女別になっていないトイレは行きづらく、性犯罪の不安も生まれます。そのため、トイレに行く回数を減らそうとした結果、膀胱炎になったりします。また、清潔の保持が難しい環境では、女性特有の症状として外陰炎などを引き起こすこともあります。

性別・立場によって異なる災害時の困難

避難所での間仕切りは、授乳をする女性からはプライバシー保護のため必要だとの声がある一方で、介護の必要な高齢者からは、仕切りがない方が安心するとの声もありました。また、女性用品や乳幼児・介護用品が不足するという問題も発生しました。洗濯物を干す時に、下着を干す場所に困る女性もいました。

また、災害時における女性と子どもへの暴力も発生しています。東日本大震災女性支援ネットワークが行った『東日本大震災「災害・復興時における女性と

子どもへの暴力』に関する調査』では、避難生活の環境の不備と「災害時の暴力」への認知度の低さが課題として浮かび上がってきました。

「いかなる犯罪行為も許さない!」ということを特に男性リーダーが毅然とした態度で示すことが女性や子どもへの暴力をなくすために大切なことです。

また、避難所運営において責任ある役割を担っている男性の中には、責任感から疲労・ストレスをため込んでしまう方もあります。復旧・復興期には、男性の生きづらさが表れてきます。阪神・淡路大震災では、仮設住宅での孤独死の約70%が男性でした。アルコール依存も増加します。

また、炊き出しを女性のみが長期に負担し続けると、疲弊していきます。

このように、災害時には、性別役割分担が顕在化・強化される問題があり、性別や立場によって災害時に起きる困難は異なります。



東日本大震災女性支援ネットワーク発行

今後の災害対策に求められていること

避難生活における困難や二次的な犠牲者を減らすために生活者の視点と男女共同参画の視点を取り入れることが求められています。被災者の半数は女性です。女性のことは女性でないとわからないことも多くあり

ます。女性は災害時の被災者支援に必要な実生活に根差した知識や能力を非常に多く持っています。女性の声を防災・災害支援対策に届ける、女性のリーダーを増やしていくことが必要です。

地域での取り組みも変わってきました!

青森県上北郡おいらせ町深沢地区では、平成24年秋の避難所開設運営訓練で、男性も炊き出し班に入り、炊き出しが実は、意外と重い物を持つことも多いことに気づきました。また、テントの真ん中を仕切って、男女別物干し場を作ったりしました。

静岡県掛川市横江区自主防災会では、男女の役割を入れ替えて女性がテントを張り、男性が炊き出しを行う訓練を実施しました。翌年からは、男女の役割を固定的に考えないで、男女混合の班になって、役割分担を工夫しています。



男女共同参画の啓発パネルの貸出しも行っていきます。

平時に出来ないことは、災害時に出来るはずがありません!

平時から男女共同参画の推進、多文化共生への理解など、多様な視点を意識しておくことが災害に強い地域づくりには不可欠です。

この講座の最後に、講師の浅野さんが「平時に出来ないことは、災害時に出来るはずがありません!」と言われた言葉が強く印象に残りました。

☆講師の紹介☆

浅野幸子さんは、大学卒業直後に阪神・淡路大震災で、国際協力NGOの現地スタッフとして在宅避難者・仮設住宅・全焼地域の復興支援などに従事され、その後も非営利組織で働きながら、災害とジェンダーに関わる活動などに取り組んでおられ、現在は、「減災と男女共同参画研修推進センター共同代表」を務めておられます。

G-NETしが推進員とは・・・
滋賀県立男女共同参画センターの講座修了生などで、地域の男女共同参画の推進に関わるリーダーです。

こんにちは、G-NETしが推進員です!

島コミュニティセンター(近江八幡市島町)を訪問

近江八幡市島町にある島コミュニティセンターを訪問しました。島コミュニティセンターは、豊かな水環境と里山の自然を背景にした、島学区における特色ある地域活動の中心となる施設として、また、子どもから高齢者まで住民のだれもが気軽に立ち寄り、利用者同士の交流を育むコミュニティ施設として平成25年12月に新築竣工されました。センター内に学区まちづくり協議会の事務局を置き、まちづくり事業等、さまざまなコミュニティ活動を行う拠点となっています。

玄関付近のテラスには、気軽にくつろげるテーブルと椅子が置かれており、一步中に入れば、ガラス張りの明るい会議室があります。男女別の更衣室や授乳室、乳幼児を寝かせたり、おむつを替えたりするのに便利な畳のスペースなどもあり、さまざまなニーズに配慮した部屋の間取りにも感心しました。

さらに、災害発生時には、1階をボランティア受け入れや情報収集および発信の場として、2階を要援護者の避難所として活用できます。隣接する島小学校とは、2階で接続する非常用渡り廊下でつながっています。屋上には自家発電機が設置されていました。このように災害時における地域の中枢施設として、また、平時には、地域のコミュニティスペースや防災訓練等の防災事業を実施する防災拠点施設としての機能も整備されています。

平成25年9月16日、台風18号の上陸に伴い、滋賀県にも初めて「大雨特別警報」が発令されました。島学区でも土砂崩れが起こり、島コミュニティセンターに避難されたご家族もありました。また、床下浸水や道路の冠水、倒木等の被害が出ました。



島コミュニティセンター外観

この時の教訓から、「自分たちの安全は、自分たちで築く」自主防災の重要性を痛感されました。そして、島学区まちづくり協議会事務局の奥西若菜さんは、自主防災を広めるために、同年11月27日に「災害時に備える地域での取り組み～高齢者や障害者など災害時要援護者を支える地域づくりとは～」をテーマに島学区民のつどいを開催されました。



島学区民のつどい風景

講師には、滋賀県社会福祉協議会の高橋宏和さん、近江八幡市社会福祉協議会の重野弘樹さんを迎え、各町に分かれて実際に避難所を運営する時に気をつけることを話し合われました。ワークショップの中で出た意見には、「近所に住んでいる人を知っておく」「町内のお付き合いを大切にする」「災害時にいかにストレスをためずに皆が暮らせるか」など、44名の参加者の内11名が女性であったこともあり、さまざまな人の立場を考えた意見が多く出たとのことでした。体験されたからこそ言える重みのある言葉・意見の数々だと感じました。



島コミュニティセンター内の様子
授乳・おむつ替え室の横には畳のスペースもあります。

男&女 ア・ラ・カルト

～海馬はすごーい～

タツノオトシゴによく似た形をした部分が人間の脳にあることをご存知ですか。その部分は記憶を司る働きをしておりますが、形が似ているからでしょうか、タツノオトシゴの別名である「海馬」と名付けられています。



このタツノオトシゴは、英語では「sea horse (シー

ホース)」と言います。日本人も英語圏の人たちもこの変わった形をしたタツノオトシゴに、海にいる馬を連想したのでしょうか。

ところで、このタツノオトシゴの子どもは雄の袋の中で育てて出てきます。この魚の体は硬くて、雌のお腹の中では成長できないため、雌は雄の体の外に付いている、柔らかい袋に卵を産み付け、雄が卵を保護し、育てるのです。雌雄がお互いに協力し合って子育てをしているのですね。

〈参考文献〉 2009年9月24日 毎日新聞
2013年12月28日 毎日新聞

「『男だから』にとらわれず多様で豊かな人生の扉を開けよう！～男性にとっての男女共同参画に関する提言～」が提出されました

滋賀県男女共同参画審議会では、「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識の解消をめざし、男性自身が、自分の人生にプラスになるものとして男女共同参画の意義を理解するために、求められる施策展開の方向性について、提言として取りまとめられ、平成26年6月26日に滋賀県に提出されました。

提言では、男女共同参画に関する意識調査をもとに、男性の行動や意識の現状等を検討した結果から、「子どもや若者が男女共同参画を体験的に理解する機会の充実」、「男性の多様な生き方を応援するコミュニケーションの場づくり」、「『男性にとっての男女共同参画』につながる相談窓口へ」という施策展開の方向性が示されました。

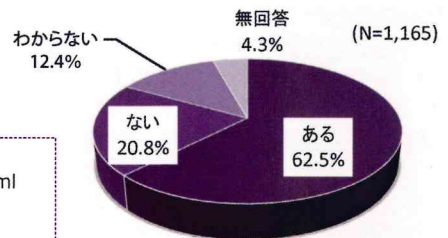
- 提言は滋賀県男女共同参画課のホームページ内「滋賀県男女共同参画審議会」内に掲載しています。
<http://www.pref.shiga.lg.jp/shingikai/danjo-shingikai/jakunensya/danseiteigen20140630.html>
- 「平成25年度滋賀県男女共同参画に関する意識調査」は下記に掲載しています。
<http://www.pref.shiga.lg.jp/c/danjo/chosa/20140624.html>

「平成25年度滋賀県男女共同参画に関する意識調査」結果の一部をご紹介します。

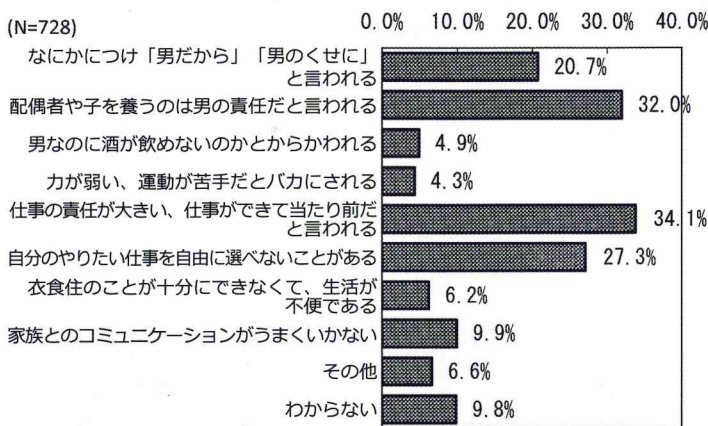
男もつらい?!

★男性の約6割が「男もつらい」と感じている

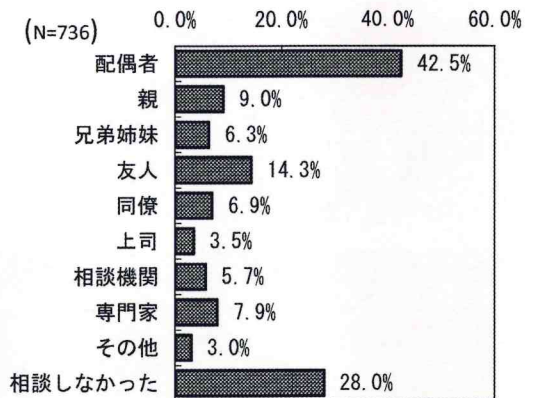
男性が「男もつらい」と感じることの有無については、「ある」(62.5%)が約6割を占め、「ない」(20.8%)を上回っています。



★男性のつらさの内容 上位は「仕事」が占める

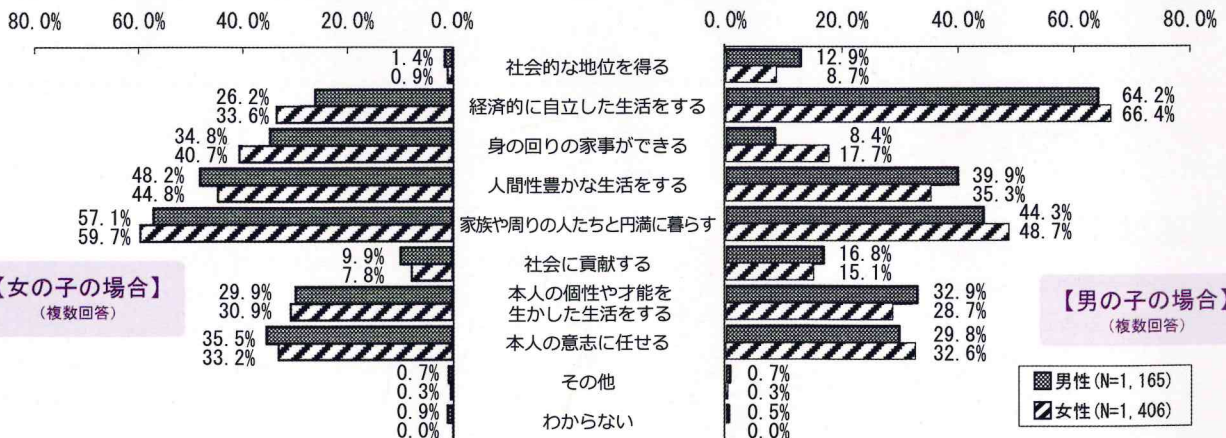


★男性の悩みや困りごとの相談相手は「配偶者」次いで多いのは「相談しなかった」



★子どもの生き方に対する親の期待は男の子・女の子で違いがある

自分の子どもの生き方に対する期待については、経済的な役割が果たせることや社会的に評価される生き方を男の子に期待する割合が多く、家事ができることや家族等と円満に暮らすことについては、女の子に期待する割合が多くなっており、子どもの性別により、親が子どもに期待する内容が異なっています。



【女の子の場合】
(複数回答)

【男の子の場合】
(複数回答)

■ 男性 (N=1,165)
■ 女性 (N=1,406)

滋賀県立男女共同参画センター(G-NETしが)事業のご案内

★男女共同参画相談室★

無料相談

「女だから…男だから…」と差別された、パートナーや恋人からの暴力、夫婦間の問題、セクハラ・パワハラなど、一人で悩まないで、まずは、お電話ください。

【相談専用電話】 **0748-37-8739**

秘密は
厳守します。

◆総合相談（電話・面接・カウンセリング）◆

火・水・金・土・日曜日 9:00～12:00 13:00～17:00
木曜日 9:00～12:00 17:00～20:30

◆法律相談◆（要予約）

◆DVカウンセリング◆（要予約）

※無料託児有り(7日前までに要予約)

★女性のためのチャレンジ相談★

無料相談

専門の相談員が、起業やキャリアアップ、NPO活動など、チャレンジしたい女性へのアドバイスや情報提供を行います。

まずはお電話ください。 **0748-37-3751**

(要予約)

※無料託児有り(7日前までに要予約)

★滋賀マザーズジョブステーション(近江八幡)★

無料相談
託児無料

専門のカウンセラーによる個別相談やアドバイス、仕事と子育てを両立するための保育等の情報、就職ナビゲーターによる求人情報の提供や職業紹介の他、託児もありますので、ぜひお気軽にご利用ください。

※祝日も相談できます。(ハローワークを除く。)

◆総合受付 0748-36-1831

◆利用時間 9:00～17:00 (受付 16:00まで)

新設『滋賀マザーズジョブステーション・草津駅前』が
新設されました！

場所：草津市大路1-1-1
エルティ932・ガーデンシティ草津 3階
休所日：土曜日・日曜日・祝日・年末年始

◆総合受付 077-598-1480

◆利用時間 9:00～17:00 (受付 16:00まで)

★G-NETシネマ★

参加無料

～毎月1回上映しています～

詳しい内容はホームページで！

◎小学生低学年以下は保護者同伴でお願いします。

※無料託児有り(7日前までに要予約)

★図書・資料室から★

～テーマ「防災」～



『地震イツモノート
—阪神・淡路大震災の被災者
167人に聞いたキモチの防災
マニュアル—』

【編】地震イツモプロジェクト
【監修】渥美 公秀
【絵】寄藤 文平
木楽舎 2007年

『モシモ』ではなく「イツモ」。
365日「防災の日」。
阪神・淡路大震災の被災
者のキモチをまとめた、新
しいかたちの、地震への備
え方と工夫の書。



『被災ママ812人が作った
子連れ防災手帖』

【編】つながる。Com
メディアファクトリー 2012年

3.11ママたちはどのように
子どもたちを守ったのか。
被災ママたちの体験をもとに、想定外の出来事が
起こるこの世の中で、備えて
おきたい防災の知識と対
策をまとめた一冊。



『家族で読める
やさしい防災ハンドブック
—保存版—2013』

【編】e-ラジオ
【特別協力】
滋賀県防災危機管理局

地震ってなに？原子力災害って
なに？風水害ってなに？
知っているようで知らない災害
のこと。マグニチュードと震度の
違いって？子どもにもわかるよう
にやさしく説明されています。
防災の基礎知識を家族で話し合
いながら学んでいきましょう。



『復興に女性たちの声を
「3.11」とジェンダー』

【編著】村田 晶子
早稲田大学出版部 2012年

「なぜ、女性の声は聞かれ
ないのか」災害復興に関わる
場面で反映されない女性たち
の声。女性が主体となり復興
に取り組みためにはどうすれば
よいか。災害時、女性のか
らだをどう守るべきか。“女
の子”を支援するには、
女性に関わる問題を東日本
大震災とその復興から考える。

図書・資料室の利用案内

“G-NETしが”の図書・資料室には、多くの書籍・資料をご用意しております。どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

■貸出 本は一人15冊まで（3週間）

ビデオは一人2本まで（1週間）

■開室時間 午前9：00～午後5：00

■休室日 月曜日(祝休日除く)

祝休日の翌日・年末年始・施設点検日

G-NETしが

滋賀県男女共同参画情報誌

VOL.27 2014年 秋号

発行日/平成26年11月

編集・発行/滋賀県立男女共同参画センター
〒523-0891

滋賀県近江八幡市鷹飼町80-4

TEL 0748-37-3751

FAX 0748-37-5770

E-mail ct30@pref.shiga.lg.jp

H P http://www.pref.shiga.lg.jp/c/g-net/

【開所時間】午前9時～午後9時

【休所日】月曜日(祝休日除く)・祝休日の翌日
年末・年始・施設点検日



JR近江八幡駅下車南口より500m (徒歩10分)
またはJR近江八幡駅南口から近江バス
「男女共同参画センター前」下車